

# 放送&芸能

## 市民ボランティアや大手各社ら… 無料の

# 上映支援

東日本大震災の被災地などを巡る無料の映画上映会が盛んに行われている。被災者へ生きる勇気と心の潤いを届けようと、市民ボランティアや非営利団体、映画関係者、映画会社らが立ち上がり、避難所などで心の復興支援、活動に取り組んでいる。(岡博大)

### 岩手、宮城、福島 of 避難所など

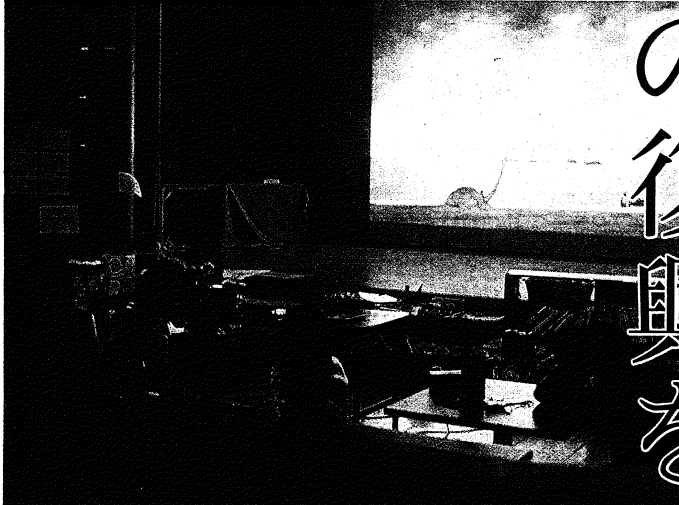
#### 震災復興支援活動として無料上映された作品

松竹	「男はつらいよ」シリーズ、「釣りバカ日誌」シリーズ、「きな子～見習い警察犬の物語～」 「幸福の黄色いハンカチ」など
東宝	「ドラえもん のび太の恐竜2006」「ALWAYS 三丁目の夕日」「ALWAYS 続・三丁目の夕日」「スウィングガールズ」「THE有頂天ホテル」
東映	「険の母」「忠臣蔵 桜花の巻・菊花の巻」「劇場版仮面ライダー電王 俺、誕生!」「映画ふたりはプリキュア」シリーズ、「長靴をはいた猫」「北の零年」「明日の記憶」など
角川	「時をかける少女」(アニメーション)、「超劇場版ケロロ軍曹」シリーズ、「旭山動物園物語～ペンギンが空をとぶ～」 「漫オギャング」など
その他	「アンパンマン」「草原の子テングリ」「木を植えた男」「やぎの冒険」「となりのトトロ」「魔女の宅急便」「いつでも夢を」「こまねこ」「キューボラのある街」「トイ・ストーリー-3」など

※上映予定含む

# 映画で心の復興を

「明るい映画を見たい」。などを求める要請が相次い岩手県宮古市の保健所から松竹に上映支援を求める連絡が入ったのは、発生からしばらくたった三月下旬だった。同社は、すぐに「男はつらいよ」のDVD全巻と上映機材を寄贈。その後、仙台市役所や石巻市役所、岩手県の映画館「宮古シネマリン」、山形に本部を置く映画団体「フォーラムネットワーク」、写真家・映画監督のAMI MORIさんら、自治体から非営利団体、個人まで、多方面から上映の権利許諾を求めている。



無料の巡回上映会で、「ドラえもん のび太の恐竜2006」を見る被災者の子どもたち＝宮城県南三陸町の避難所で

「苦しい現実が隣にある人ばかり。せめて心を満腹にする時間をお届けしたい」。この話すのは、五月初旬から岩手県内の避難所や小学校などで巡回上映を続けている宮古シネマリンの榎一則支配人。「スクリーンに向かって応援する子どもたち、歓声を上げるお年寄り。普段の映画館では見られない場が生まれている。あらためて映画が持つチカラに気付かされた」

けた宮城県南三陸町。五月二十八、二十九日の両日、避難所の歌津中学校体育館などで、避難住民ら対象の無料上映会が開かれた。作品は「ALWAYS 続・三丁目の夕日」「ドラえもん のび太の恐竜2006」など。主催は、四月下旬から被災地の巡回上映会を始めた都内の葬祭会社「花心」。同社からボランティアとして派遣された上映会を手伝う松本弘吉さんは「最初は被災者の方々とどう接したらいいかも分からなかったけれど、皆さんから話しかけてくれる。子どもたちも笑顔になってくれた」と映画のチカラを実感。避難所からは「お年寄りは引きこもる。全国のミニシアターなどが加盟する一般社団法人コミュニティシネマセンター(東京)は五月、無料の巡回上映プロジェクト「シネマ・エール東北」を始めた。七月中旬までに岩手、宮城、福島三県の避難所など約四十五会場を実施する予定で、作品の手配や機材・資金面で現地の上映団体などと連携する。岩崎ゆう子事務局長は「映画にできることがある、と信じている」と希望を託す。